

環境エンジニアリング事業本部

リサイクル推進都市ごみ焼却設備

クボタのリサイクル推進都市ごみ施設は、「ごみは貴重な資源」として、リサイクルを最大限に実現するシステムに変化してきました。

2001年3月に竣工した宇都宮市クリーンセンター茂原焼却ごみ処理施設は、

ごみ焼却時の熱エネルギーを出来る限り回収して、最大7500kWのごみ発電を行います。この発電量は、一般家庭2万世帯以上の消費電力に相当します。

さらに、ごみ焼却後に出てくる焼却灰は、設備に併設した熔融炉でスラグ化し、体

リサイクルエンジニアリング事業部

積が約1/3になるだけでなく、性状が安定したガラス状となるため、建設資材などに有効利用できます。

一方、工場棟屋根に降った雨を貯留槽に貯め、地下水の補給水として有効利用しています。



宇都宮市クリーンセンター茂原焼却ごみ処理施設



中央制御室

下水高度処理システム

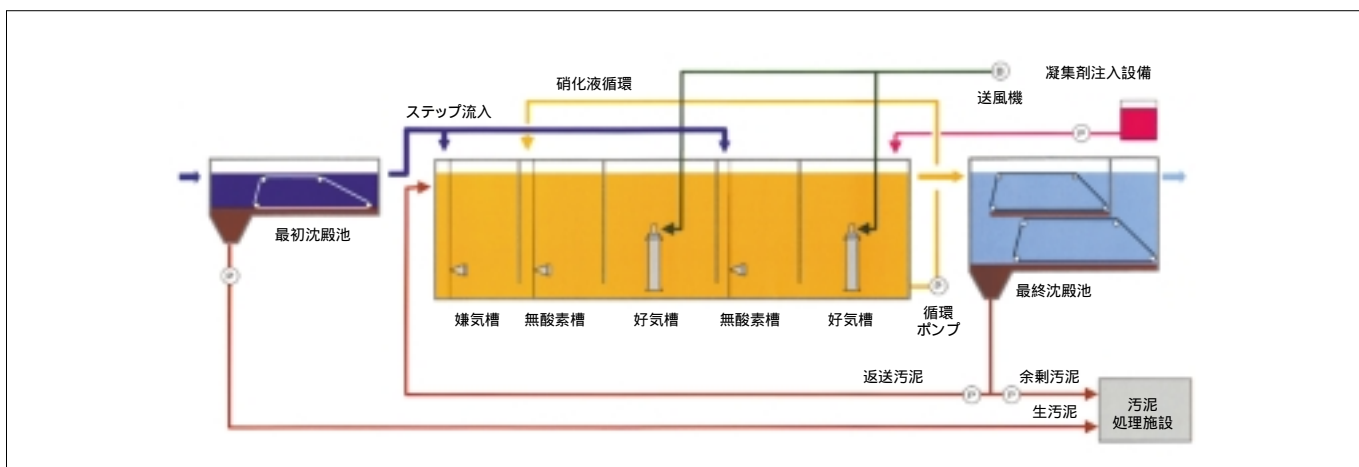
下水道の普及が本格化する中で、より安全で快適な水環境を創造するために下水道による水質保全の高水準化が求められるようになりました。特に、東京湾、瀬戸内海など大都市を抱える内海での

水質環境基準の強化に向けて、下水の窒素・リン除去対策が本格化してきました。

千葉市向けに窒素・リン除去高度処理システムを納入、本格運転に入っています。よりコンパクトな施設で高度処理を可能

上下水エンジニアリング事業部

とする2段階ステップ法が採用されており、運転経費の安価な生物処理をベースにした本システムの運転実績に注目が集まっています。赤潮対策など水質保全に貢献する技術です。

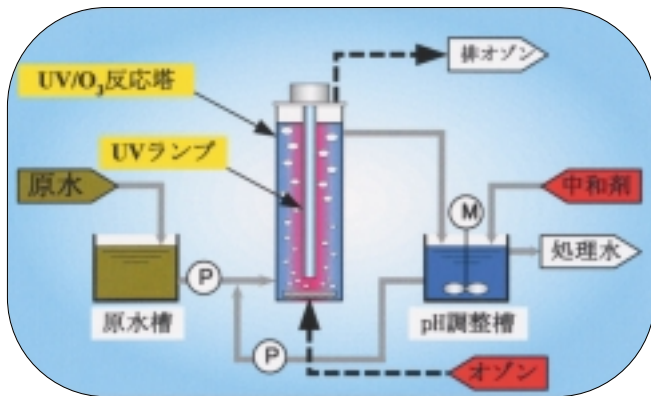


ダイオキシン類分解処理装置

クボタが開発したダイオキシン類分解処理装置は、独自の光化学分解方式により水中ダイオキシン類を定量下限以下レベルまで分解・除去できます。

高いダイオキシン類分解性能に加え、常温・常圧下で、低いランニングコストで

運転できます。埋立浸出処理水中のダイオキシン類除去装置の国内第1号機としての納入・稼働実績をはじめ、数件の埋立処分場にも設備を建設中です。



光化学分解方式ダイオキシン類分解装置基本フロー

水環境エンジニアリング事業部

洗煙排水系の高濃度ダイオキシンに対しても、環境省から高い評価を頂き「高濃度ダイオキシン類汚染物処理技術マニ

ユアル」の中に光化学分解方式が採用されています。また、大阪府豊能郡美化センター周辺環境改善事業における水処理業務(国内初のダイオキシン類処理業務)において、当社のダイオキシン類分解処理装置が採用されました。処理水質は0.1pg - TEQ / ℓ以下で「ダイオキシン類対策特別措置法」で定められた環境基準値の1/10以下でした。



ダイオキシン分解塔

クボタ内燃式炭化装置

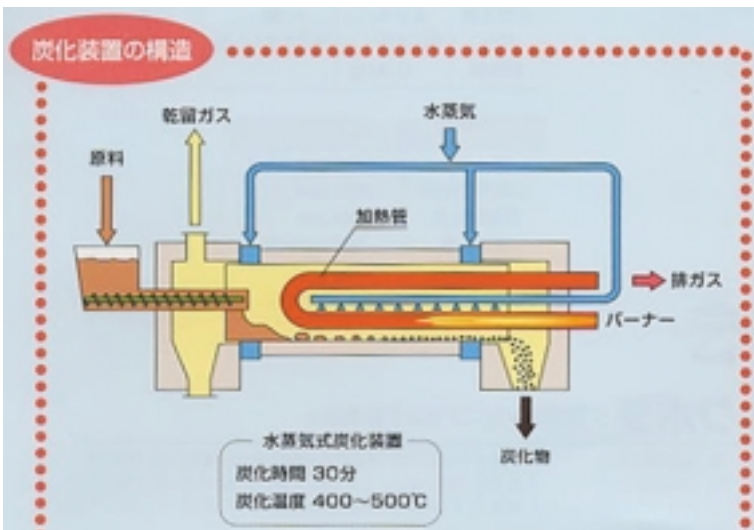
リサイクル社会を迎えクボタでは他社に先がけ、汚泥のリサイクルとして従来のコンポスト技術を凌ぐ新技術の炭化システムの開発に取り組み、実用化しました。平成12年7月に稼働した奈良県山辺環

境衛生組合山辺環境衛生センター炭化装置はし尿処理施設脱水汚泥を160kg / 時間(水分73%)処理しています。

クボタ内燃式炭化装置は、効率的な熱利用で燃料消費を削減したり、処理物と

高温水蒸気の接触により高速処理を可能にする等の特徴があります。

製品である炭化物は、原料と比較して体積が約1 / 8になりしかも悪臭がなくハンドリングが極めて向上します。又普



奈良県
山辺環境衛生組合
山辺衛生センター

通肥料として認可、登録済みで、地域住民に有効利用されています。